

# 平成28年度 宇都宮大学 全学FDの日

1. 日 時 平成28年9月23日（金）9時から
2. 場 所 大学会館2階 多目的ホール  
（工学部アカデミアホールに映像・音声配信）
3. テーマ 「行動的知性」を育むために  
～脱「アクティブ・ラーニングをする」宣言！～
4. 日 程  
【表彰】  
9:00 ベストレクチャー賞表彰及び受賞者による授業実践の紹介  
  
【全学FDシンポジウム】  
10:30 挨拶（学長 石田 朋靖）  
10:40 趣旨説明（基盤教育センター長 橋本 啓）  
10:55 基調講演「アクティブラーニングで学生の何を育みたいか」  
（聖心女子大学准教授 杉原 真晃 氏）  
11:40 質疑応答  
12:00 終了（予定）

（参考）各学部の実組：個別FD活動

地域デザイン科学部

コミュニティデザイン学科 【13:00 開始】：ラーニング・プレイス 2（峰町5号館B棟2階）

建築都市デザイン学科 【14:00 開始】：建築会議室（陽東8号館5階）

社会基盤デザイン学科 【14:00 開始】：建設工学会議室（陽東8号館4階）

国際学部 【13:30 開始】：大会議室（峰町5号館A棟4階）

教育学部 【14:00 開始】：大会議室（峰町8号館A棟2階）

工学部 【14:00 開始】：アカデミアホール（陽東10号館1階）

農学部 【13:00 開始】：峰ヶ丘講堂（峰地区）

## 目 次

第13回「宇都宮大学ベストレクチャー賞」受賞者名簿	1
第13回「宇都宮大学ベストレクチャー賞」選考要項	2
基調講演「アクティブラーニングで学生の何を育みたいか」 (聖心女子大学准教授 杉原 真晃 氏)	3

※第13回「宇都宮大学ベストレクチャー賞」受賞者による授業実践の紹介資料は別添にてご用意しております。

## 第13回「宇都宮大学ベストレクチャー賞」受賞者名簿

学部等名	授業科目名	担当教員名	科目コード	受講者数	回収枚数	全体平均点	備考
国際学部	比較文化論演習	アンドリュー・ニール・ライマン	K560200	17	19	4.99	全学FDの日における発表者
教育学部	作曲 I	木下 大輔	S410015	10	10	5.00	全学FDの日における発表者
	音楽A	高島 章悟	S101615	40	37	4.83	
	生活科教育法	丸山 剛史、他 (担当教員全5名)	S102417	86	77	4.66	
工学部	制御工学	平田 光男	T260465	82	57	4.84	全学FDの日における発表者
	データベースシステム	東海林 健二	T660110	38	21	4.82	
	電気計測	石井 清	T230116	92	46	4.79	
農学部	森林基礎生物学	逢沢 峰昭	A007016	36	32	4.82	全学FDの日における発表者
	生物化学 I 生物化学 II	蕪山 由己人	A000500 A000505	42 42	38 36	4.75	
基盤教育	新入生セミナー	熊田 禎介	G144501	15	15	4.92	
	スポーツと健康	黒後 洋	G265020	39	39	4.88	
	ワークショップで学ぶ『変わりゆく現代社会の中の私たち』	湯本 浩之	G845925	11	10	4.92	全学FDの日における発表者
	農学部コア実習	田坂 聡明、他 (森林科学科全教員)	G903700	36	34	4.85	

## 第13回「宇都宮大学ベストレクチャー賞」選考要項

平成28年5月25日 教育企画会議

本学では、基本的な教育目標として「広く社会に開かれた大学として、質の高い特色ある教育と研究を実践し、人類の福祉の向上と世界の平和に貢献する。」を掲げている。

この教育目標を達成するための一環として、優れた講義を行っている教員にベストレクチャー賞を授与し、併せて、教員相互の授業改善の意識向上に役立てることを意図している。

なお、ベストレクチャー賞は、優れた授業への取組みであることに鑑み、本学における志願者確保等の観点から、その取組内容を広報活動においても活用することとする。

以下に「第13回宇都宮大学ベストレクチャー賞」の選考について必要事項を定める。

1. 対象は、専任教員が担当する学士課程のすべての授業科目（以下「科目」という。）とし、当該科目を複数で担当している場合は、その代表者とする。
2. ベストレクチャー賞の選考は、平成27年度前期及び後期の「授業評価アンケート」を参考に、教育企画会議において候補者を決定する。
  - ①国際学部、教育学部、工学部、農学部の専門教育科目担当者及び基盤教育科目担当者から選出する。候補者数は開講科目数を勘案し、基盤教育4名、国際学部1名、教育学部3名、工学部3名、農学部2名とする。
  - ②「授業評価アンケート」の回答者数が10名以上の科目を対象とする。
  - ③授業評価項目4から9の平均点は、概ね4.0以上とする。
  - ④その他、選考内容・方法は教育企画会議が定める。
3. ベストレクチャー賞受賞者には、「全学FDの日」において学長から表彰状、副賞及び教員研究費10万円を授与する。
4. ベストレクチャー賞受賞者の取組内容については、他の教員の授業改善の意識向上に役立てること、さらには広報活動に活用するため、以下の事項について考慮する。
  - (1) 受賞者は授業に対する心構えや取り組み方などをまとめた資料「授業概要」を作成し、「全学FDの日」において15分程度の発表を行う。
  - (2) 「授業概要」を学内向けHPに公開するとともに、オープンキャンパスの日などに模擬講義を実施する。
  - (3) 受賞者の模擬講義（10分～15分程度）をビデオ収録し、これを蓄積したものを本学HP等に公開する。

宇都宮大学 全学FDの日2016 全学シンポジウム(2016年9月23日)

## アクティブラーニングで学生の何を育みたいか

聖心女子大学文学部教育学科  
杉原真晃

msugihara@u-sacred-heart.ac.jp

### 本日の内容

1. アクティブラーニングにより育みたいもの
2. アクティブラーニング導入の際の課題
3. アクティブラーニングをいかに活用するか

## 1. アクティブラーニングにより育みたいもの

### 1-1. アクティブラーニングの定義

### 1-2. アクティブラーニングの意義

### 1-3. アクティブラーニングにより育む資質・能力

### 1-4. 資質・能力の育成を目指す教養教育の課題

3

### 1-1. アクティブラーニングの定義

教員による一方向的な講義形式の教育とは異なり、**学修者の能動的な学修への参加を取り入れた教授・学習法の総称。**

学修者が**能動的に学修することによって、認知的、倫理的、社会的能力、教養、知識、経験を含めた汎用的能力の育成を図る。**

発見学習、問題解決学習、体験学習、調査学習等が含まれるが、**教室内でのグループ・ディスカッション、ディベート、グループ・ワーク等によっても取り入れられる。**

中央教育審議会「**新たな未来を築くための大学教育の質的転換に向けて～生涯学び続け、主体的に考える力を育成する大学へ～（答申）**」（用語集）（2012年）

4

## 1-2. アクティブラーニングの意義

### (1) 中央教育審議会答申(2012.8.28)

「新たな未来を築くための大学教育の質的転換に向けて  
～生涯学び続け、主体的に考える力を育成する大学へ～」

### (2) 一般的アクティブラーニングと

高次のアクティブラーニング(河合塾, 2013)

5

### (1) 中央教育審議会答申(2012.8.28)

我が国は未曾有の災害である東日本大震災に見舞われたほか、政治、経済、社会、文化、その他多方面にわたり、当時よりも更に大きな構造的変化に直面している。グローバル化や情報化の進展、少子高齢化などの社会の急激な変化は、社会の活力の低下、経済状況の厳しさの拡大、地域間の格差の広がり、日本型雇用環境の変容、産業構造の変化、人間関係の希薄化、格差の再生産・固定化、豊かさの変容など、様々な形で我が国社会のあらゆる側面に影響を及ぼしている。さらに、知識を基盤とする経営の進展、労働市場や就業状況の流動化、情報流通の加速化や価値観の急速な変化などが伴い、個人にとっても社会にとっても将来の予測が困難な時代が到来しつつある。

6

### (1) 中央教育審議会答申(2012.8.28)

生涯にわたって学び続ける力、主体的に考える力を持った人材は、学生からみて受動的な教育の場では育成することができない。従来のような知識の伝達・注入を中心とした授業から、教員と学生が意思疎通を図りつつ、一緒になって切磋琢磨し、相互に刺激を与えながら知的に成長する場を創り、学生が主体的に問題を発見し解を見いだしていく能動的学修(アクティブ・ラーニング)への転換が必要である。すなわち個々の学生の認知的、倫理的、社会的能力を引き出し、それを鍛えるディスカッションやディベートといった双方向の講義、演習、実験、実習や実技等を中心とした授業への転換によって、学生の主体的な学修を促す質の高い学士課程教育を進めることが求められる。学生は主体的な学修の体験を重ねてこそ、生涯学び続ける力を修得できるのである。

7

### 1-2. アクティブラーニングの意義

#### (2) 一般的アクティブラーニングと

高次のアクティブラーニング(河合塾, 2013)

一般的アクティブラーニング

知識の定着・確認を目的としたもの

高次のアクティブラーニング

知識活用・課題解決を目的としたもの

8



### 1-3. アクティブラーニングを通して身につける資質・能力

将来の予測が困難な時代において高等教育段階で培うことが求められる能力(学士力)

答えのない問題に解を見出していくための批判的, 合理的な思考力等の認知的能力

チームワークやリーダーシップを発揮して社会的責任を担う, 倫理的, 社会的能力

総合的かつ持続的な学修経験に基づく創造力と構想力

想定外の困難に際して的確な判断ができるための基盤となる教養, 知識, 経験

9

### 1-4. 資質・能力の育成を目指す教養教育の課題

- (1) 汎用的な能力を育成する際の脱文脈化
- (2) 産業社会で活躍する人材育成への偏重

10

(1) 汎用的な能力を育成する際の脱文脈化 (杉原, 2010)

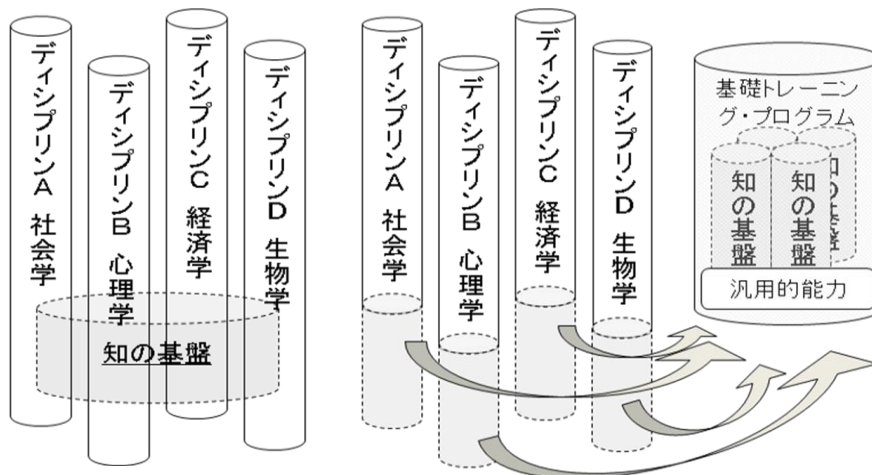


図1 共通の知の基盤

図2 パッケージ化された  
共通の知の基盤

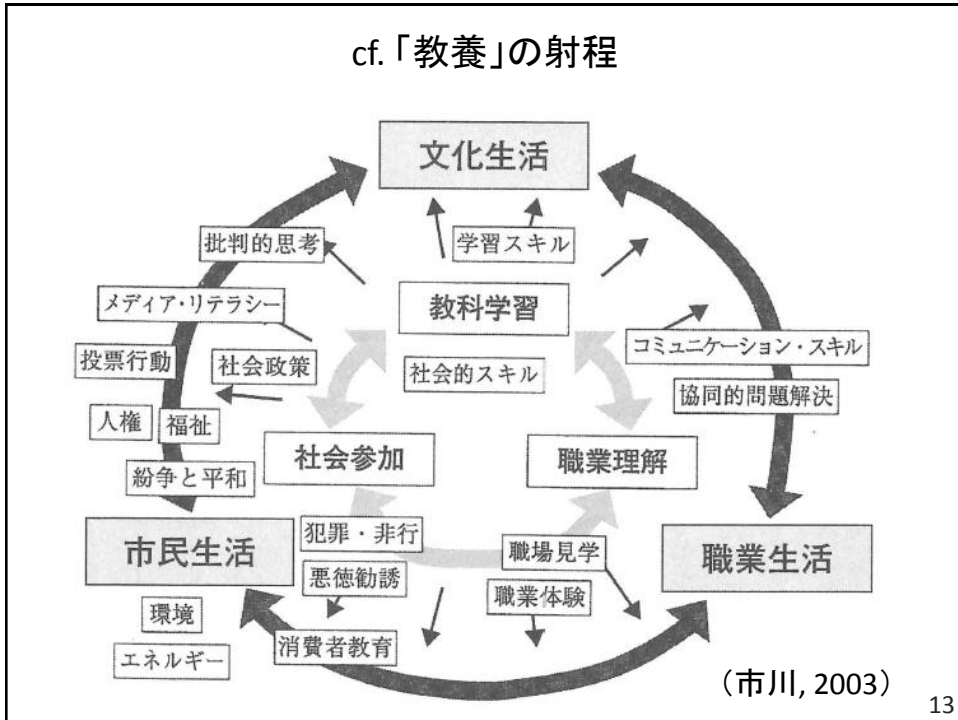
11

(2) 産業社会で活躍する人材育成への偏重

- ・教養教育が“知識基盤社会の人材養成”が主要課題として掲げられてきた。“結果のわかりやすい”教育へと流れていく。
- ・基礎学力の不足を補うための補習教育、実用的な英語力に絞った外国語教育、ITスキル、日本語文章教育、就職への心がまえや企業人感覚を説くキャリア教育、資格取得対策、果ては図書館の使い方、ノートの取り方、挨拶・マナーまでが授業科目にとりいれられ、これらがみな「教養教育」のあらたな展開だという、教養教育の「欺瞞的多義化」(天野, 2001)が蔓延してきている。「社会人基礎力」が便利な目標として大学に広がっている。

(林, 2013)

12



## 2. アクティブラーニング導入の課題

2-1. アクティブラーニング導入の課題1

2-2. アクティブラーニング導入の課題2

2-3. アクティブラーニング導入の課題3

## 2-1. アクティブラーニング導入の課題1

杉原(2014)

- ①「学生の主体的な学び」を重視する活動をすべての授業で行える・行うべきものなのか？
- ②「覚えなければならない知識」はあるのではないかな？
- ③教えなければならない内容が多くて学生の主体的な学習活動を導入する余裕がない科目があるのではないかな？
- ④学生の興味・関心から出発する学習内容は、就職・就労や実生活に直接的に「役立つ」ものや「おもしろいもの」に偏ってしまうのではないかな？

15

## 2-1. アクティブラーニング導入の課題1

杉原(2014)

- ⑤「学生の主体的な学び」を重視する授業での「学びの評価」をいかにして行うのか？
- ⑥「学生の主体的な学び」と「教員の教え・介入」との関係性をどのように作るのか、いかにして大学の授業としての質を保証するのか？
- ⑦「学生の主体的な学び」を重視する授業により、学生がキャンパス内での学問活動（特に講義型授業）から逃走するのではないかな？

16

## 2-2. アクティブラーニング導入の課題2

溝上(2014)

- (1) ALは座学ができない学生のためのもの？
- (2) 知識定着率を上げるのがAL？
- (3) ALに正解はない？
- (4) プロジェクト学習だけやっておけば十分？
- (5) 3・4年生の専門ゼミ・卒業研究でAL型授業はしっかりやっているの、1・2年生では要らない？
- (6) 技能・態度(能力)はクラブやアルバイトで鍛えれば  
いい？

17

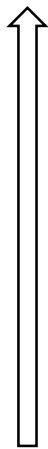
## 2-3. アクティブラーニング導入の課題3

その他の課題

- ・ALが苦手・不向きな学生
- ・ALの効果(エビデンス)
- ・「これまでやってきた授業実践で良い」と  
「アクティブラーニングの質にかかる議論」との関係
- ・はい回るAL  
⇔ 系統的な資質・能力の育成

18

cf. 系統的な資質・能力の育成(例)



4年 卒業論文:問題発見力・解決力、情報収集・分析力、論理的思考、批判的思考 など

3年 3年ゼミ:興味・関心の拡張、情報収集・分析力、問題発見・解決力、論理的思考、批判的思考 など

2年 2年ゼミ:興味・関心の喚起、情報収集・分析力、読解力、問題発見力、論理的思考 など

1年 入門科目:興味・関心の喚起、問題発見力、論理的思考、思考の相対化 など

19

3. アクティブラーニングをいかに活用するか

3-1. これまでの議論のまとめ

3-2. どのような実践をおこなうのか

3-3. 主体的に学ぶ態度を育てるために

20

### 3-1. これまでの議論のまとめ

「何を教えるか・知ってもらうか」(知識内容)は重要。  
知識内容を「実践する」機会が、さらに重要。  
(「実践」は身体運動に限らず、精神運動も包含)  
→「実践」により育てたい「資質・能力」は何か？  
「実践」を通してどのような人間になってほしいか？

21

### 3-1. これまでの議論のまとめ

- ・学問的知識という「内容」的側面と、
- ・それによりどのような実践ができるようになるのか、  
何ができるようになる(できる可能性を拡げる)のかという  
「コンピテンシー」的側面との

双方の意義を持つ学びの場づくり

⇒「学問」「アクティブラーニング」という営みが有効  
(個人的実践、協同的実践)

⇒アクティブラーニングは、知識内容の習得と  
資質・能力の向上が可能な、教育者の希望である。

22

### 3-1. これまでの議論のまとめ

そして、

- ・知識内容のカリキュラム(体系化)のみならず、  
資質・能力のカリキュラム(体系化)、および、  
それを育む方法(アクティブラーニング)のカリキュラム  
(体系化)を、マネジメントしていく必要がある。

23

### 3-2. どのような実践をおこなうのか

アクティブラーニングの実践の在り方(例)

- ・浅い学習・深い学習 (Biggs and Tang, 2007)
- ・協同学習 (Johnson and Johnson, 1991)

→ 個々人で深く考えるとともに、  
各大学、各学科、コース等で検討・共有

24



cf. 深い学習と浅い学習の理解のレベル (Biggs and Tang 2007)

振り返って熟考する (reflect)	
離れた課題に適用する (apply: far problems)	
仮説を立てる (hypothesize)	
原理に結びつける (relate to principle)	
身近な課題に適用する (apply: near problem)	
客観的理由をあげて説明する、解説する (explain)	
自分なりの理由をあげて主張する、論じる (argue)	
関連づける (relate)	
中心となる考えを理解する (comprehend :main ideas)	
状況や特徴を述べる、記述する (describe)	
言い換えていう (paraphrase)	
文章を理解する (comprehend: sentence)	
確認する、名前をあげる (identify, name)	
記憶する (memorize)	

25

cf. 協同学習 (Johnson and Johnson 1991)

	古いパラダイム	新しいパラダイム
知識観	教員が知識を学生に移し、記憶・再現させる	学生が知識を発見・構築・変換するような環境を教員が創る
学生観	受身的な器 (教員の知識で満たされる)	自分の知識を積極的に構成・発見・生成する主体
授業の目的	学生を分類・選別すること	学生の能力と才能を開発すること
人間関係	学生間、教員と学生の間で非人間的な関係	学生間、教員と学生の間で人間的なかわりあい
学習環境	競争的・個別的な学習	クラスでは協同学習、教員間では協同チーム

26

### 3-3. 主体的に学ぶ態度を育てるために

#### 学力の三要素

- (1) 基礎的・基本的な知識・技能
- (2) 知識・技能を活用して課題を解決するために必要な  
思考力・判断力・表現力等
- (3) 主体的に学習に取り組む態度

学ぶ楽しさ、ともに学び・語り合う喜び  
が大切

27

### 3-3. 主体的に学ぶ態度を育てるために

#### <共愉性>

- ・Conviviality(自立共生)→「共愉」(古瀬ら, 1996)
- ・学習者が実践共同体へ参加する前提(佐伯, 2014)
- ・教育者と学習者が二人称的關係となる
- ・ともに、新たな発見・気づきや学びの喜びがある

→教育者:教育実践・学習者の(予想外の)姿が楽しい、  
好きになる

学習者:教員(および他の子ども)と学ぶことが楽しみ  
になる

28

### 3-3. 主体的に学ぶ態度を育てるために

#### 二人称的關係性 (佐伯, 2012)

× 教育する「わたし」と教育される対象としての「誰か」

○ かけがえのない「You」的な存在(我と汝)としての  
「わたし」と「あなた」

→ 教師にとって、子どもは理解し応答する「あなた」

子どもにとって、教師は威光模倣とする「あなた」

⇒ アクティブラーニングは、教え・学ぶ愉しさを味わえる、  
ともに学ぶ教員・学生との良きかかわりを築くことのできる、  
教育者の希望であり、学習者の希望である。

29

#### 参考文献

- Biggs, J., and Tang, C. (2007) Teaching for Quality Learning at University, 3rd edition, Open University Press, McGraw-Hill, 2007.
- Johnson, D.W., Johnson, R.T., Smith, K.A. (2001) (関田一彦監訳)『学生参加型の大学授業—協同学習への実践ガイド』玉川大学出版部.
- 林哲介 (2013)『教養教育の思想性』ナカニシヤ出版.
- 河合塾 (2013)『「深い学び」につながるアクティブラーニング—全国大学の学科調査報告とカリキュラム設計の課題』東信堂.
- 古瀬幸広・広瀬克哉 (1996)『インターネットが変える世界』岩波新書.
- 溝上慎一 (2014)『アクティブラーニングと教授学習パラダイムの転換』東信堂.
- 佐伯胖 (2014)「そもそも「学ぶ」とはどういうことか: 正統的周辺参加論の前と後」  
組織科学 48(2), 38-49.
- 佐伯胖 (2012)「「まなびほぐし(アンラーン)のすすめ」  
苅宿俊文・佐伯胖・高木光太郎編『ワークショップと学び1 まなびを学ぶ』  
東京大学出版会, 27-68.
- 杉原真晃 (2014)「「学生の主体的な学び」にかかる問題意識」  
山形大学高等教育研究年報8, 6-15.
- 杉原真晃 (2010)「<新しい能力>と教養—高等教育の質保証の中で—」  
松下佳代編著『<新しい能力>は教育を変えるか—学力・リテラシー・コンピテンシー』  
ミネルヴァ書房, 108-138.

30